

平成29年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第3回「東京の豊かな自然を体感」（テーマ：自然）

- 実施日時 平成29年7月28日（金）10時00分～16時15分
- 受講者数 26名（教員22名、研修・聴講者4名）
- 実施場所 高尾山、高尾ビジターセンター
- 実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義及び実習

（ゲストティーチャー：森林インストラクター東京会

水木 稔 氏、村上 智裕 氏、瀧浪 邦子 氏、田川 裕則 氏）

- ・【ケーブルカー乗車前】準備体操、班ごとに自己紹介、安全上の注意事項説明など



- ・【慰霊碑広場】ネイチャーゲーム「フィールドビンゴ」、「カモフラージュ」体験





・【4号路】歩きながら、自然観察会を実施



【午後】

3. 環境学習プログラム「自然に親しむプログラム」の紹介及び実習

(講師：NPO法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 「自然に親しむプログラム」プログラム紹介と体験

①「葉っぱ合わせ」概要

- ・数種類の木の葉っぱを2枚ずつ用意して、どの葉とどの葉が同じ木の葉っぱか、色や形、手触り、厚さ、におい等をよく調べて葉っぱ合わせを行う。班ごとに、なぜ同じ葉っぱだと判断したのか、また気づいた点などを発表する。

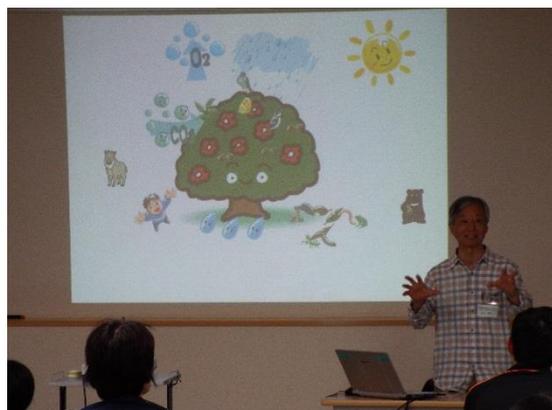


②その他のプログラムの紹介

- ・校庭の自然マップづくり、秋の宝物さがし、冬芽拡大図鑑
- ・「緑の役割を知ろう！」(温度くらべ) など

(2) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要。



- ・環境学習もその一環であり、「自然は人間やすべての生き物のいのちの源である」ことを、実際の体験や気づきを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切。

(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・繰り返し来て、先生の目を養うことも必要と感じた一方、知らなくても理科と切り離して環境に目を向けてやってみることもできるとも感じた。
- ・ネイチャーリーダーと学校の橋渡しをしてもらえるようなところが有難い。詳しい方に学校に来ていただいて、校内の植物を調べられるといいと思った。
- ・カモフラージュなど、ぜひやってみたいが、生徒の人数が多いので、工夫したい。
- ・見た目だけでなく、においなど、観察する視点の声かけも大切と感じた。
- ・葉っぱ合わせなど、できることから取り入れてみたい。
- ・自然観察の前にネイチャーゲームと取り入れると、観察眼が鍛えられて良いと思った。
- ・林間学校などで取り入れられるといいと思った。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散